

第8回 通常総会議案

2020年6月27日

一般社団法人 協同総合研究所

はじめに

1. 人類史的危機の時代、未来を選択するのは私たちである
2. 私たちが直面している危機の正体は？ 問われているのは命の問題である
3. 協同総研が問い続けてきた「協同の原理」を継承・発展させる
4. 「労働者協同組合法」制定は、「協同」による社会づくりを前進させる
5. 協同総研の役割 — 新しい社会をつくる運動の当事者に

人類史的危機の時代、未来を選択するのは私たち

- コロナ後の社会はどうか？
- 大分岐の時代にいる私たち



人類史的危機の時代、未来を選択するのは私たち

- コロナ後の社会はようになる？
- 大分岐の時代にいる私たち



人類史的危機の時代、未来を選択するのは私たち

- コロナ禍、気候危機の原因は人間の経済活動



人類史的危機の時代、未来を選択するのは私たち

- コロナ禍、気候危機の原因は人間の経済活動



人類史的危機の時代、未来を選択するのは私たち

- コロナ禍、気候危機の原因は人間の経済活動

利潤の最大化、果てしない競争



人の命・自然との共生を優先、協同の関係

私たちが直面している危機の正体は？ 問われているのは命の問題である

- 休業要請は命を守るため？
- 雇用崩壊・大失業の危機

いたばし生活仕事サポートセンター(生活困窮者自立相談窓口)の現状

- ・相談者は通常の10倍以上
- ・休業要請による収入減少⇒ギリギリの生活で家賃も払えない
- ・住居確保給付金、生活福祉資金の相談
- ・今後、倒産・廃業により、失業者の増加が懸念される。

私たちが直面している危機の正体は？ 問われているのは命の問題である

- 労働の価値を問い直す

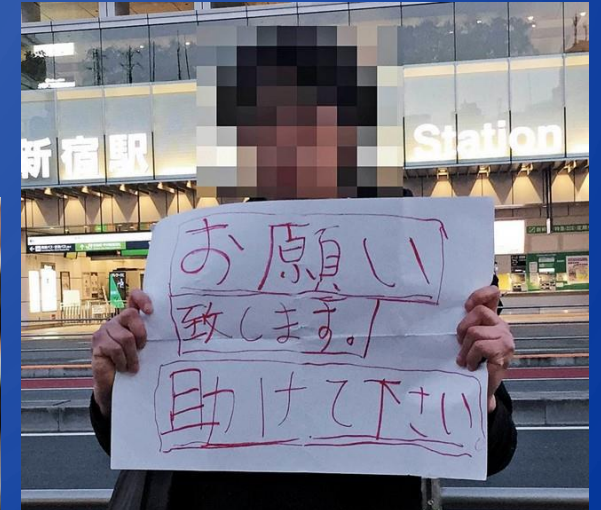


社会に必要不可欠な仕事
(エッセンシャル・ワーカー)



私たちが直面している危機の正体は？ 問われているのは命の問題である

- 人と人が協同することの危機



私たちが直面している危機の正体は？ 問われているのは命の問題である

- 「文化」や「遊び」が棄損される危機



私たちが直面している危機の正体は？ 問われているのは命の問題である

- 子どもたちの危機（未来の危機）



協同総研が問い続けてきた「協同の原理」を継承・発展させる

- 協同総研の原点にある問題意識

人類の危機:「利潤の原理」(資本主義)が問題



人類の危機克服:「協同の原理」への転換が必要

協同総研が問い続けてきた「協同の原理」を継承・発展させる

- 「協同の原理」のさらなる発展を

「協同の原理」の実装化

- ・ 多様な協同組合組織、非営利・協同セクターの広がり
- ・ 労協運動、協同労働運動の深まり



「労働者協同組合（協同労働の協同組合）」法制化運動

「労働者協同組合法」制定は、「協同」による社会づくりを前進させる

- 法制化の実現
- 経済危機を生き延びるために

「協同労働」を通して「協同の原理」を社会に広げる
⇒ 人間・自然・社会が調和した共生社会の実現

コロナ禍による大倒産・大失業に対して、労働者自らが
「働いて生きる」道を拓く

協同総研の役割 —新しい社会をつくる運動の 当事者に

- コロナ・ショックドクトリンとの闘い

「利潤の原理」に打ち克ち、「協同の原理」が主導権を握るために、社会変革のビジョンを描くこと

- 「協同」の運動をつくる研究所に

研究者、実践者、学生、市民、あらゆる立場の人たちと「協同の総合戦略」を編み出し、「協同」の運動をつくる

第1号議案 2019年度活動報告

<テーマ>

「労働者協同組合法」は、私たちの社会に何をもたらすのか？

絶望の使い捨て労働から、希望の協同労働へ。

人間らしい労働と生活を求めて、協同労働研究の新しい挑戦
が始まる。

1. 「労働者協同組合」法制化の取り組み

- 衆議院法制局が法案の最終版作成⇒超党派議員連盟に提案(3月31日)
- 労働者協同組合法案、6月12日に全党・全会派一致で衆議院に提出



2. 所報『協同の発見』

- 双方向性を大切に
- 情勢に即した特集設定
- 実践者による執筆
- 海外情勢の充実
- デザインを工夫



3. 大学との協同一寄附講座

- 2019年度は10大学で開講／沖縄大、沖縄国際大、久留米大、沖縄キリスト教学院大、千葉大、和歌山大、桃山学院大、琉球大、埼玉大、新潟大



4. 研究会

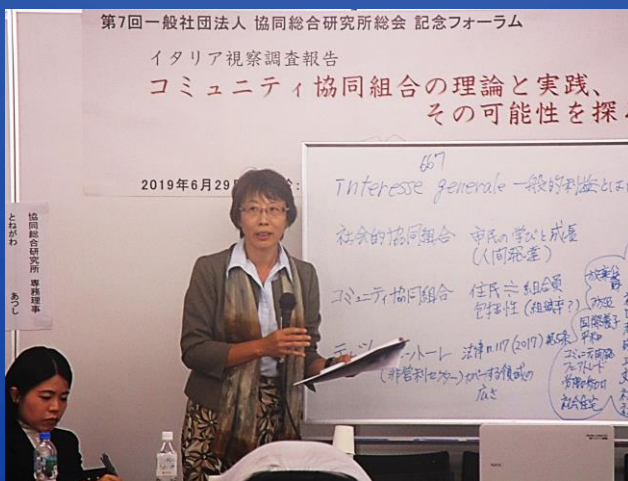
• 「社会的連帯経済 × 協同労働」研究会

第1回 (7/23)	社会構成主義の立場から連帯経済、社会的経済を考える (問題提起)	北島健一(立教大教授)
第2回 (9/21)	社会的連帯経済をどのようにわかりやすく説明するか 持続可能な地域にとって必要不可欠な地域未来産業の創出	富沢賢治(一橋大名誉教授) 古村伸宏(協同総研理事長)



4. 研究会

- イタリア視察調査報告—コミュニティ協同組合の理論と実践、その可能性
- 協同労働研究会
- JYCフォーラム・よい働き方研究会



5. 調査研究事業の受託

- 社会福祉推進事業

「被保護者に対する就労支援時のアセスメントに関する調査研究事業」

アンケート調査

ヒアリング調査

アセスメントツールの開発



記入例：20代DV母子ケース

受給者 番号	保護 開始日	年月日	開始補助 交付日	年月日	受付者
-----------	-----------	-----	-------------	-----	-----

【第1部】基本的な情報

フリガナ 氏名	性別	女	生年 月日	年月日 (22 歳)
住所	電話 自宅 () - 携帯 () - メール			
稼働 能力 判定 会議 の結果	どこまでの就労が可能か、本人の可能性や困難・支援を必要としていること			
意見	子ども2人(4歳と2歳)を育てている。二人とも保育園に通園しているが、夜泣きがひどく、本人自身も育児に疲れている。DVによる避難であるため、地縁がなく、親族も働いているため頼れない。本人自身はメニエール病で慢性的な頭痛と眩暈がある。			
1、 基本 情報	母子で経済的自立を図りたいとの主訴。 また、保育園に通わせるために一定就労しなければならない。自身で就職活動をするものの、育児と就労のバランスが分からず継続的な就労には至らず。			
世帯 の基	世帯 タイプ ■単独 □夫婦のみ □夫婦と子ども □その他 ()	世帯 人数	3 人	
最低生活費	240,580 円/月			

5. 調査研究事業の受託

・ 緑と水の森林ファンド

「竹材のエネルギー利用の社会的枠組み構築に関する調査」

森と自然を活用した
保育・幼児教育を考える
シンポジウム

2020.2.15 土
(開催:12:30) 13:00~17:30

【基調講演】
乳幼児期における
自然体験や外遊びのススメ
～全国実態調査より～

国語研究所 代表
東京大学経済学部地域協働学センター
副学長 藤原 佳織

◆ 事例報告

- グラウンドだった野原を、土壌改良・植木の植栽によって緑地化
鎌倉 太郎 (関西学院大学 助産師)
- 市街地の公園 (津波公園) を活かした森のようちん
田中 裕子 (自治体 代表)
- 行政や自治会と連携した森のようちん
岡本 友友子 (森のようちんウィズナチュール 代表)
- 幼稚園への出前木育 (木材利用に関する教育活動) 授業
米地 優行 (NPO法人 木育フォーラム 理事)
- 田舎に生々木が集う空間づくり 専門家の活動
小島 智恵子 (京都女子大学 非常勤講師、小島智恵子 代表)
- 名画を連携した「森と自然を活用した保育・幼児教育」の推進
尾形 祐子 (関中健康福祉部子ども家庭課)
乾 千穂 (関中独立国語教育委員 委員)

◆ パネルディスカッション 進行: 山崎 善人 (NPO法人 日本森林セラピー協会 理事)

「森林環境教育・森林ESD」
「緑の少年団」推進
全国セミナー in 大阪

2020.2.16 日
(開催:9:30) 10:00~13:00

【基調講演】
新学習指導要領における
森林ESDの意義・可能性

京都教育大学 教授
山下 宏文

◆ 概要報告

- 新学習指導要領に対応した「森林ESD」の授業
～新教科書における森林・林業等の記載内容等の紹介～
木原 知大 (公社国土緑化推進機構)

◆ 事例報告

- 幅広い学校への出前授業・指導者養成・活動支援の仕組み
坂上 優子 (みえ森づくりサポートセンター 副センター長)
- 青少年教育施設における教科等と連携した森林ESDの導入体制整備
高峯 宏樹 (国公立青少年教育館 副館長 国立青少年自然の家 企画指導専門員)
- 免許取得研修と連携した教員向け研修準備事例
永重 一之 (大阪教育大学 教授)
- 牧野 純子 (大阪みどりのトラスト協会)
- 森林環境教育実践者の実態について
高石 博 (林野庁、近畿中国森林管理局 筑紫森林ふれあい推進センター 自然再生推進員)

◆ 趣旨説明

◆ 事例報告

- 公民連携で取り組む山・川・保全の取組・手紙大
野原 宏実 (茨城県国土庁 専任職員)
- 約20年続く学校とNPOの協働による森林ESD
～年間指導計画に位置付け、教科等との連携に考慮した民間小中学校の取組～
福野 文彦 (京都森林インストラクター)
- 森のようちん入りの保護者が主体となった森林NPOの設立と森づくり・水づくり活動
小林 祐子 (森づくりデザイン集団 Green)
- 湧水 関の暮らしデザイン集団(Accell)

◆ 質疑応答・ディスカッション

- 助成金個別相談会 / ボスターセッション・情報交換会

緑のボランティア
助成セミナー2020
in 大阪

2020.2.16 日
(開催:13:30) 14:00~18:30

◆ 趣旨説明

◆ 事例報告

- 公民連携で取り組む山・川・保全の取組・手紙大
野原 宏実 (茨城県国土庁 専任職員)
- 約20年続く学校とNPOの協働による森林ESD
～年間指導計画に位置付け、教科等との連携に考慮した民間小中学校の取組～
福野 文彦 (京都森林インストラクター)
- 森のようちん入りの保護者が主体となった森林NPOの設立と森づくり・水づくり活動
小林 祐子 (森づくりデザイン集団 Green)
- 湧水 関の暮らしデザイン集団(Accell)

◆ 質疑応答・ディスカッション

- 助成金個別相談会 / ボスターセッション・情報交換会

「森林のギャラリー」パネル展

2020.1.15 水 ▶ 2.21 金
近畿中国森林管理局 1F
開催9:00~17:00 ※土・日・祝日休館 (2/15は16時)

【会場アクセス】
「近畿中国森林管理局」
4F 大会議室 (大阪市北区天満橋2丁目8-75)
JR環状線/東/東区西かき徒歩約1分
非森林のギャラリー(1F)は、1Fです。

【お申し込み】
公益財団法人
大阪みどりのトラスト協会
ホームページ: <http://www.ogtrust.jp/>
*お申し込みは、お申し込みのうえです。

【専用申込フォーム】 <http://bit.ly/2020shinrin-kyouiku>

※下記のFAX専用申込書、もしくはTEL・E-mailでも承ります。
*FAX: 06-6614-6689 (TEL: 06-6614-6688 (Eメール) midori@ogtrust.jp)

お名前	※お申し込みください	
年齢	※20代・30代・40代 50代・60代・70代	
所属	役職	
住所 〒		
TEL	FAX	E-mail

参加日程

- 2/15 森と自然を活用した保育・幼児教育を考えるシンポジウム
- 2/15 交流会(シンポジウム前夜・会費 ¥3,300(税込))
- 2/16 「森林環境教育・森林ESD」緑の少年団推進全国セミナー in 大阪
- 2/16 緑のボランティア助成セミナー2020 in 大阪

※所属団体名は個人で取り扱っている森林環境教育の取組についてお書きください。

※会場でお使いの領収書、お振替で受けたいことなど、お書きをお寄せください。

【お問い合わせ】
① 森林のギャラリー(1F)は、2/15 森と自然を活用した保育・幼児教育を考えるシンポジウム、(交流会)について
公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会 庶務課 事務局 事務局 事務局
② 「森林環境教育・森林ESD」緑の少年団推進全国セミナー in 大阪について
公益財団法人 国土緑化推進機構 庶務課 庶務課 庶務課 庶務課
TEL: 03-3262-8437 FAX: 03-3264-3974 E-mail: fore-sapogreen.or.jp
③ 緑のボランティア助成セミナー2020 in 大阪について
公益財団法人 国土緑化推進機構 庶務課 庶務課 庶務課 庶務課
TEL: 03-3262-8457 FAX: 03-3264-3974 E-mail: bokin@green.or.jp

次世代育成と一体となった
森づくり活動促進企画

2020
2/15
13:00
~17:30
土

森と自然を活用した
保育・幼児教育を考える
シンポジウム

幼稚園・保育園で行う、森林や公園など、身近な自然環境を活用した自然体験(自然保護)の取り組み拡大に向けて、子どもが取り組み、行楽との連携、サポートする専門家の確保などの事例をベースに報告し、自然環境の保護とその方法について学びます。

【主催】公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会
【協賛】近畿中国森林管理局、国土緑化推進機構、公益財団法人 国土緑化推進機構、公益財団法人 国土緑化推進機構

2020
2/16
10:00
~13:00
日

「森林環境教育・森林ESD」
「緑の少年団」推進
全国セミナー in 大阪

新たな学習指導要領とそれに対応した「新科目」の授業内容の紹介や、学校への出前授業、公民連携活動などの連携して森づくり活動を進めている事例、学校での森林環境教育・森林ESDの推進など、必要となる連携や手法、情報をお寄せください。

【主催】公益財団法人 国土緑化推進機構、公益財団法人 国土緑化推進機構、公益財団法人 国土緑化推進機構

2020
2/16
14:00
~18:30
日

緑のボランティア
助成セミナー2020
in 大阪

「森の会」では、全国展開中で実施されている多種多様な森づくり活動を推進しています。学校や青少年教育施設などと連携して森づくり活動を進めている事例の活動紹介と「緑の森舎」「緑と水の森林ファンド」の紹介を行います。

【主催】公益財団法人 国土緑化推進機構、公益財団法人 国土緑化推進機構、公益財団法人 国土緑化推進機構

【定員】
各80名

【参加費】
無料
※お申し込みと
参加費を合わせて
お振替ください。

国土緑化推進機構ホームページ
イベントの開催を案内しています。
<http://www.green.or.jp/>

6. 「協同ではたらくガイドブック 入門編」制作

ワーカーズコース
Cooperatives for Human Well-being

協同ではたらくガイドブック — 入門編 —

一般社団法人 協同総合研究所

ワーカーズコースで働く

20代 松岡美幸さん
共に成長できる嬉しさ

あなたが若者サポートステーション（若年者の就労支援をする場所。ワーカーズコースが実例）に通っていた事で協同労働と出会いました。今は「こみっとプレイス」（カフェ）と地産地消食堂で楽しく働かせていただいています。「こみっとプレイス」では毎日の朝礼、夕礼、月に一度の会議があり、働くメンバーが今思っていることを話しています。仲間が受け止める意見が言えるのは嬉しく、仲間が受け止めてくれます。

正職員・アルバイト、性別、年齢関係なく同じ働く仲間として意見を話し合え、お互いを尊重し合えるところが、協同労働で働いてみてよかったと思えるところ。お互いそれぞれが得意なところ、強みがありますが、謙虚するのではなく、強みすることを強しく思い、前向きに働きたいです。

地域共生型就労拠点「こみっと」

50代 石本依子さん
まちづくりを考えるうとんカフェ

コミュニティセンターの地域サロンの中で、まちの未来について地域の人たちと話し合い、まちづくり活動を行う中で、「地域の誰もが活躍できる場所」を模索中。立ち上げの動機は、地域の活性化を促すこと、若い世代や地域住民から資金の協力を得て、町内会や地域カフェという形でオープン、コミュニティカフェとして提供したり、サロンや打ちあそびやワークショップを開催し、まちづくり、食に関するイベントを幅広く行っています。

店の運営に賛同してくれている地元の農業者のボランティアグループは、毎日いきいきと店の運営を手伝っています。いつも誰かにかかるとして、地元愛されるカフェにしたいです。

札幌地域福祉推進所 稲塚 隆子（北海道）

ワーカーズコースで働く

30代 名城千鶴さん
山の魅力を伝えたい！

山で仕事をしているうちに、山の素晴らしさをたくさんの人にわかってもらいたい！山を知らない子どもたちにも山の魅力を伝えたい！と思うようになりました。仕事を休みのときに、2年前から子どもたちを対象にしたイベントを始めました。最初は地域のボランティアやボランティアスタッフにも講師やボランティアスタッフとして参加して頂くなど、協働しています。また、木工製作を通じて山「森のかげり体験工房」を地元のホテルに設置しています。

私たちにしかつけない人と森のかけはしを、これからは広げていきたいと思っています。

山形地域福祉推進所（兵庫県）

20代 田島達也さん
自分にも仕事おこしができる

研修などで協同労働について学び深めていき、実際に仕事を起こす仲間を手伝っていき、協同労働等デザインゼミ（ZGO）に参加し、協同労働に必要な仕事おこしについて学びたいです。

イベント時にはコーディネートもしています。



7. ネットワーク活動

- いま「協同」が創る2019全国集会in kanagawa
- 協同組合関係研究所間の交流
- JYCフォーラム



7. ネットワーク活動

- 日本協同組合学会
- 社会的企業研究会
- 「労働」に関わる研究所の方々とのネットワークづくり
- しあわせの経済国際フォーラム
- 大阪労働学校・アソシエ東京教室イベント
- 首都圏若者支援ネットワーク
- 木村快会員(現代座)との連携
- 武相協同組織等研究会
- 生活困窮者自立支援全国研究交流大会

8. 基幹会議、会員動向

- 理事会：4回開催（コロナにより1回中止）
- 事務局会議：11回開催
- 会員動向： 会員数408（個人368、団体40） 購読会員20



8. 総務、広報

- 協同総研ホームページのリニューアル
研究者、実践者が新しいテーマに出会うホームページ



8. 総務、広報

- 所報『協同の発見』誌
リニューアル

所報 協同の発見 第329号 | 2020.4

特集 生存の危機を超える協同の総合戦略を探究する
— 未来への胎動から —

◎ 古村 伸宏 人間の生存危機から問う協同総研2030
◎ 中村 賢一/高橋 靖典 自由と自覚性、徹底的に多様性を認める — 農野の取り組みから見る、新しい山村の姿 —
◎ デイサービス「そらまめ」の取り組み — 福島からの避難者との交流から始まった事業所
◎ 玉木 信博 未来への胎動 エコビレッジの考察から
◎ 渡口 政也 「小農・森林ワーカーズ」全国ネットワーク」究足に向けて
◎ 佐々木 政行 「小農・森林ワーカーズ」の展開方向を考える

■ 巻頭言 岡村 信秀 人間の尊厳と協同を根幹に新たなシステムの形成をめざして

■ 海外レポート 田中 夏子 コミュニティ協同組合を考える②
イタリア視察調査報告〜イヴァン・ストメオ (Ivan STOME) 氏 (メルビニャーノ市長、Cooperativa di Comunità di Melpignano設立者) のインタビューを中心に〜

■ 会員だより 高谷 栄一 急がれる持続可能な農業への転換

■ 協同の広場 相良 孝雄 第3回川崎平石南門顕彰会・研究会報告
— 「人類生存の危機」の時代だからこそ、
人間性の復興として協同・共同体をつくる —

所報 協同の発見 第329号 (2020.4月号)
2020年4月15日 (毎月1回15日発行)
編集・発行 / 一般社団法人 協同総合研究所
代表 / 古村 伸宏
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋SPタビル7F
Tel 03 (6907) 8033 Fax 03 (6907) 8034
定価1,300円 (税込)
Email kyodoken@roukyou.gr.jp URL <http://jicr.org/>
郵便振替口座 00140-7-552949 題字 / 藤原 桂州

所報 協同の発見 第329号 | 2020.4
Discovery of Cooperation

特集 生存の危機を超える、協同の総合戦略を探究する
— 未来への胎動から —

小春日和の3月22日、太陽光発電を設置したデイサービスそらまめで点灯式が行われ、地域や行政の方々、仲間たちがともに完成を祝った。気候危機の今、日常の選択を変え、暮らしを変えていくことが、持続可能な社会につながり、もしものときの備えにもなる。そらまめはこれから、地域の防災拠点にもなっていくだろう。

一般社団法人 協同総合研究所
JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

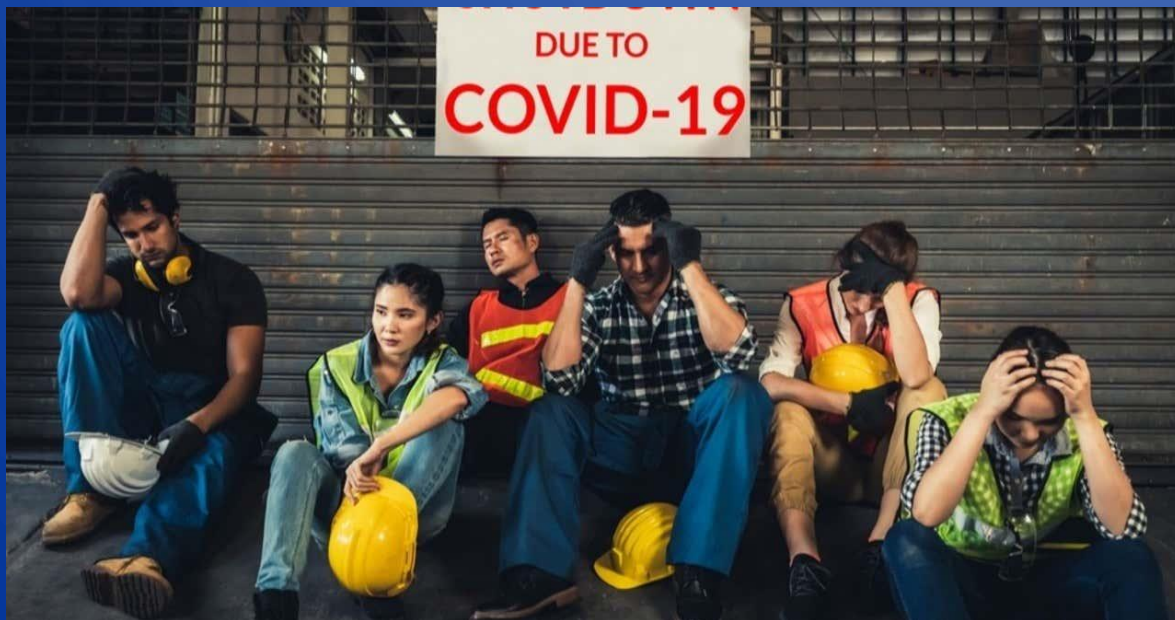
第4号議案 2020年度活動方針及び活動計画

<テーマ>

気候危機、パンデミック、人類史的危機の時代にあって、命を守り、生きることを保障する「協同」の総合戦略を考える。

～「労働者協同組合法」制定を契機に、「協同」「共生」による新しい日本社会の創造を求めて～

1. 大倒産・大失業、不安定就労のさらなる拡大に対して、人が「働いて生きる」権利・生存の保障について問う。



2. 「労働者協同組合法」制定の意味、社会に生かす方法、波及効果について調査・研究・政策提言

- 制定後の施行に関わる研究・提言
- 法律の仕組みと設立について
- 法制化の社会的価値、社会的効果について
- 社会的連帯経済の担い手としての労働者協同組合

労働者協同組合法案について

生活との調和を保ちつつ、意欲・能力に応じて就労する機会が必ずしも十分に確保されていない現状等

法整備

労働者協同組合

組合員が出資し、それぞれの意見を反映して組合の事業が行われ、組合員自らが事業に従事することを《基本原理》とする組織

組合を通じて

多様な就労の機会の創出 地域における多様な需要に応じた事業の実施

そして

持続可能で活力ある地域社会の実現

【事業の具体例】

- > 介護・福祉関連（認知症ケア）
- > 子育て関連（学童保育等）
- > 地域づくり関連（産物加工品販売所等の拠点整備、社会定住官舎等）
- > 若者・高齢者支援（自立支援等）

1 法制化の必要性

- 持続可能で活力ある地域社会を実現するため、出資・意見反映・労働が一体となった組織であって、地域に貢献し、地域課題を解決するための非営利の法人を、簡便に設立できる制度が求められている。
- 現行法上、このような性質を備えた法人形態は存在しないため、新たな法人形態を法制化する必要がある。

	企業組合	NPO法人	労働者協同組合
出資	○	×	○
設立	認可主義	認証主義	準則主義

2 労働者協同組合法案のポイント

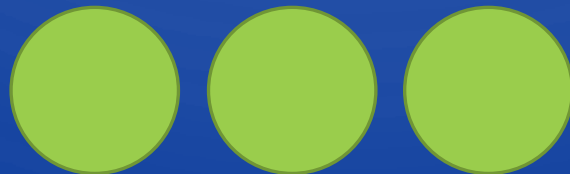
- 組合の基本原理に基づき、組合員は、加入に際し出資をし、組合の事業に従事する者とする。
- 出資配当は認めない（非営利性）。剰余金の配当は、従事分量による。
- 組合は、組合員と労働契約を締結する（組合による労働法規の遵守）。
- その他、定款、役員等（理事、監事・組合員監査会）、総会、行政庁による監督、企業組合又はNPO法人からの組織変更、検討事項（施行後5年）等に関する規定を置く。

3. 「労働者協同組合」「協同労働」「協同」の研究所として、人類史的危機に対して「協同」による生存戦略を描く。

「協同労働」を深める研究

- 労協連が牽引してきた協同労働運動の理論と実践
- ワークスコープの現場の実践から探求
- 多角的な「協同労働」研究

協同労働



みんなのおうち

3層構造

3. 「労働者協同組合」「協同労働」「協同」の研究所として、人類史的危機に対して「協同」による生存戦略を描く。

「協同組合」「協同」「労働」を研究

- 「協同組合」の今日的な価値
- 協同による人間の変化・成長・発達
- 「協同の原理」に基づくコミュニティ経済
- 地域住民の協同による社会連帯活動
- 社会が直面する様々な課題を解決する協同
- 労働の価値を問い直す



4. 設立30周年

- 30周年を記念した取り組みを検討

記念シンポジウム

ロゴ作成

30周年記念誌

紹介ビデオ制作

5. 若者たちとの協同

- 大学寄附講座「ワーカーズコープ論」の発展
- 子ども、若者と協同の学びを深める
- 若者たちとともに「協同」を運動化



6. 『協同の発見』誌を活用して、発信強化、会員拡大

- ポストコロナの社会づくりと法制化をリンクさせて展開



協同の原理による
社会づくり



労働者協同組合法
制定



7. ネットワークの強化

- 会員間、他団体との交流を深める
- 気候危機、地球環境、地域循環型経済をテーマに
- ネットワークを活用した活動の推進
- 海外ネットワークの強化



8. 組織課題

- 法制化実現に伴う体制強化
- 財政的な自立を目指して
- 発信力を高める
- 蔵書の有効活用
- 「21世紀戦略」の策定



The image features a solid blue background with white, stylized circuit board traces in the corners. These traces consist of straight lines of varying lengths and angles, ending in small white circles, resembling electronic components or connections. The traces are located in the top-left, top-right, bottom-left, and bottom-right corners, framing the central text.

ご清聴ありがとうございました。